

# 日本気象学会第26期役員選挙候補者名簿

(掲載順は地区ごとに受付順)

平成2年4月17日

日本気象学会選挙管理委員会

## 1. 理事 (地区別)

氏名	所属
〔北海道地区〕 (定数2名:候補者2名)	
菊地勝弘	北海道大学
二宮洸三	札幌管区気象台
〔東北地区〕 (定数2名:候補者2名)	
鈴置哲朗	仙台管区気象台
田中正之	東北大学
〔関東地区〕 (定数13名:候補者15名)	
村山信彦	駒沢女子短期大学
小倉義光	日本気象協会
竹内清秀	日本気象協会
松原廣司	気象庁観測部
安富裕二	気象庁予報部
青木孝	気象庁予報部
浅井富雄	東京大学
中村一	気象庁予報部
村上勝人	気象研究所
藤谷徳之助	気象研究所
木田秀次	気象研究所
安成哲三	筑波大学

氏名	所属
佐藤信夫	気象庁予報部
岡村存	気象研究所
松野太郎	東京大学
〔中部地区〕 (定数2名:候補者2名)	
山岸米二郎	名古屋地方気象台
武田喬男	名古屋大学
〔関西地区〕 (定数4名:候補者4名)	
植村八郎	大阪管区気象台
光田寧	京都大学
廣田勇	京都大学
佐橋謙	岡山大学
〔九州地区〕 (定数3名:候補者3名)	
門脇俊一郎	福岡管区気象台
瓜生道也	九州大学
小林哲夫	九州大学
〔沖縄地区〕 (定数1名:候補者1名)	
石島英	琉球大学
2. 監事 (定数2名:候補者2名)	
関口理郎	日本気象協会
多田一正	気象衛星センター

## 候補者名, 略歴・所信

## 1. 理 事

〔北海道地区〕

## 菊 地 勝 弘

昭和9年7月14日生, 昭和34年北海道大院卒。

これまで通り, 日本気象学会の発展のため力を尽くしたいと思っております。

推薦者: 遠藤辰雄, 伝法宏, 北出武夫, 松田一

## 二 宮 洸 三

昭和10年8月1日生, 昭和33年東京大卒。

気象技術の進歩は大気科学の発展と不可分のものであり, この点からも日本気象学会の発展を望んでいます。海外諸国の気象学会では大気科学の基礎的部門のみならず気象技術に関する部分でも活発な学会活動が行われており, 日本気象学会もこの部門の活動をさらに充実すべきと考へます。

なお学会本部の事務局体制は強化されましたが, 会員数の増加もあり, 支部事務局体制についても考へるべき時と思ひます。

推薦者: 北出武夫, 伝法宏, 遠藤辰雄, 松田一

〔東北地区〕

## 鈴 置 哲 朗

昭和10年10月18日生, 昭和33年名古屋大卒。

気象業務の今後の発展のためには大気科学の基礎的な研究の進歩との関わりが欠かせないものとなっています。

一方多くの地方の会員にとって学会各分野の活動のすべてがより身近なものとしてとらえることのできるようにしていくことが今後一層重要になることと思ひます。

推薦者: 吉住禎夫

## 田 中 正 之

昭和10年4月15日生, 昭和36年東北大院卒。

わが国の気象学の研究環境は先進諸国に比べて見劣りする面が多いので, その改善のために微力を尽したいと考えている。

推薦者: 近藤純正

〔関東地区〕

## 村 山 信 彦

昭和3年6月30日生, 昭和27年京都大卒。

地球大気環境が政治問題化して来ている昨今, 大気環境保全のために, なすべきことが多々あり, また大変難しいと考えられます。このデンジョンメーカー

の根拠となるのは, 大気科学であり気象学の知識であります。わが国の気象学界を代表する日本気象学会は, 歴史の古い学会でありまた常に先進的でありますから, この面でも指導的役割を果さなければならぬと思います。近年日本気象学会は国際学術交流の積極的推進などによって, 地道な方法で貢献していると思われまふ。当面する問題が生じたときは, その一端を荷うことによって盡力したい。また私個人としては気象学界の第一線にいないという経験から, 例えば学会内の分科会活動を盛んにするなど, 気象学界の第二線の立場の学会員の積極的な研究活動参加のための通信メジヤの役割を果してみたいと考えています。

推薦者: 吉川友章, 佐藤純二, 木村富士男, 小林隆久, 小出孝

## 小 倉 義 光

1922年5月11日生。

東京大学海洋研究所教授・所長, マサチューセッツ工科大学気象学教室客員教授, イリノイ大学に大気科学教室を創設などを経て, 現在イリノイ大学名誉教授, 日本気象協会顧問。主要著書: 大気乱流論, 大気科学 (NHK ブックス), 気象力学通論, 一般気象学。

日米両国で永らく気象学の研究と教育に従事し, またいろいろな国際会議等に参加してきた経験を, 日本気象学会のお役にたてたいと思っています。略歴と所信を400字以内で書くようにとのことですが, 私の筆力では少し鋭いことを書こうとすると, 字数足らずで誤解を招き易く, さればとって当りさわりのないことでは, 書いても書かなくてもいいようなことになり, 書くのが難しいですね。手初めに, この理事・監事選挙のやりかたについて私案を書いてみたら1600字を超えてしまいました。

推薦者: 朝倉正, 浅田暢彦, 関口理郎

## 竹 内 清 秀

大正13年12月5日生。

兵庫県姫路市の出身。昭和22年東京大学理学部物理学科を卒業後, ただちに気象庁に入る。数か所の転勤のち昭和60年気象研究所長を最後に定年退職。その後, 勲日本気象協会に就職, 現在, 常任理事。

気象学は, 一般に気象学プロパーと応用気象学に分けられます。近年, 人間活動の発展とともに, 気象についての情報のニーズが非常に高まっています。環境問題, 防災問題, エネルギー問題, 交通安全や産業振

興などの諸問題、これら重要な問題のどの一つをとってみても、気象と緊密に関連していないものはありません。これらは応用気象学の分野と考えられましよう。

私は、いろんな分野の人達と話し合う機会がありますが、この応用気象学の一層の発展が痛感されます。それで、この分野の進展のため、従来より一層、微力を尽したいと考えています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 松原 廣司

昭和22年8月10日生，昭和46年気象大卒。

オゾン層の破壊，温暖化等全球規模の気候監視の重要性が叫ばれています。

卒業以来日射観測，オゾン観測，及び南極での観測を通して会員の皆様と接する機会が多く，特に現在は，気象庁のオゾン層解析室に勤務し，地球環境問題に対する学会の貢献の大きさを改めて認識しているところです。

このたび，諸先輩方々の推薦で立候補することとなりました。微力ではありますが，会員の皆様の手足あるいは接点として貢献できればと考えています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 安富 裕二

昭和22年2月26日生，昭和44年気象大卒。

この度，諸先輩のご推薦を受け立候補しました。気象界に入って以来，高層観測，南極観測，統計業務，教育機関，予報業務等多くの局面で諸先輩のご指導の下に気象業務の一端を微力ながら担ってまいりました。

気象学会の活動に関しては，「天気」編集委員会や教育と普及委員会を通じて僅かながら貢献できたと感じております。

気象学やそれを基礎として成り立つ気象業務をより充実するためには，気象情報を受け取る一般国民への気象知識の啓蒙活動が如何に大切かということも実感しております。

情報処理機器の充実に伴い，気象学の学び方は変わってきたような気がします。気象学会が小学校・中学校・高校等での気象教育を含めた新しい時代の気象教育の普及や，最先端の研究の成果を求める多くの学会員の間をつなぐ橋渡しが十分に出来るよう，微力を尽くしたいと思ひます。

1990年5月

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 青木 孝

昭和21年2月9日生，昭和43年気象大卒。

先輩の方々から推薦をいただき，理事に立候補いたしました。気象学会の活動がますます多様化しつつあるとき，理事会の役割りは重要で，任務を十分に果たすことができるかどうか不安もあります。しかし気象学会の運営には実務的な仕事も多いということです。これまで気象庁や気象研究所などで，天気予報に関連する現業や研究をしてきました。この経験を生かし，気象学会の発展のために少しでもお役に立てればと思っております。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 浅井 富雄

昭和7年9月15日生，昭和30年京都大・理卒，気象研究所，京大・理に勤務の後，現職。

かねてから，自由な発想に基づく自主的な調査・研究活動が発展し得るように会員相互の切磋琢磨と協力の場を育てることが学会の最大の任務と考えていましたので，その方針で前2年間は理事長として努力してきました。

会員の皆さんが研究活動を進める際に信頼できる拠り所となるような学会へさらに成長させたいものです。

また，近隣諸国はもとより世界各国の研究者との協力，交流を一層活発にし，世界の気象界にも貢献するため，1993年のIAMAP総会を我国に招致しましたが，その開催を有意義なものにするため最善を盡くす所存です。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武

#### 中村 一

昭和24年7月24日生，昭和52年東京大院卒。

これまで大学と気象庁という職場の経験しかありませんが，会員の方の学会活動に期待するものが多様であることを感じます。このような要望に応えるには学会の足腰を強化する必要があるということで，庶務担当理事として2期にわたり事務局体制の強化に努力してきました。学会では1993年にIAMAP総会を日本で開催する計画など，国際的な活動もより一層推進されており，今後も事務局体制の強化に努めていきたいと考えています。また，学会の執行・企画機関である

常任理事会も、多忙な理事のボランティアに頼っている現状では腰のすわった活動は困難です。事務局体制の問題とともに常任理事会のあり方についても検討の場を設けることを提案していきたいと考えています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 村上 勝人

昭和21年9月5日生，昭和49年東京大院卒。

これまで2期にわたって、講演企画ついで気象集誌編集の担当として学会運営のお手伝いをさせて頂きました。この期間を通じてポスターセッションやスペシャルセッションの導入、気象集誌の刷新といったいくつかの変革に参加する機会を得て、会員とのコミュニケーションについて考え、勉強することが出来ました。次期においては、新方式の気象集誌を軌道に乗せることに努めると共に、パソコン通信などの新しいコミュニケーションの可能性も探っていきたいと思っています。うまく育てば、出版・講演・通信の3本柱で日本ばかりではなく、海外との交流をも促進できるのではないかと期待しています。試行錯誤もあることと思いますが、ベンチャー的な企画が比較的通り易いのが、学会活動の魅力でもあります。「十年一日の如く」というのも一つの美しさではありますが、「新しいアイデアが出てこなくなったら、去る」という姿勢で提言していきたいと思っています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 藤谷 徳之助

昭和20年10月4日生，昭和44年京都大卒。

このたび尊敬する先生方のご推薦をうけ、非力をも省みず理事に立候補することにいたしました。これまで私は「天気」の編集委員として、学会運営にささやかですが協力させて頂いていただきました。委員としての活動を通じて、我々は学会から多くの有形無形の恩恵を受けているにもかかわらず、あまりそのことを意識していないということに気づきました。一般の会員にとっては、春秋の大会の場合にしか学会の存在が身近に感じられないのではないのでしょうか。学会活動は会員一人一人のボランティア精神によって支えられております。会員一人一人が学会の存在を身近に感じるようになればなるほど、学会活動は活発になるものと考えられます。学会をより一層身近なものに感じるために、「天気」がお役に立てばと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 木田 秀次

昭和17年7月17日生，昭和49年東京大院卒。

私は、前期の常任理事として講演企画と総合計画を担当し、非力ながらも学会運営に加わって参りました。学会員の皆様には、理解あるご協力を頂き、無事任期を終えることが出来ましたこと深く感謝致しております。この度、学会運営の連続性を保つため、引き続き理事として協力するようにと、尊敬する先生・先輩方からのお勧めがあり、その推せんをお受けすることに致しました。そういうわけですので、ことさら抱負があるわけではありませんが、学会員の声に耳を傾け、いま何が求められているか、そして何を為すべきかをよく考えながら、学会活動が一そう活発になるよう今後とも協力してゆきたいと思っています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 安成 哲三

昭和22年7月9日生，昭和52年京都大院卒。

今回、何人かの方々のお勧めで、理事に立候補することに致しました。

気象学会は、会員数、大会運営、機関誌刊行等の活動状況からみて、ほぼ確立した学会として機能していると思います。しかし、確立度を増すいっぽうで、他の関連諸学会や境界領域の研究者との連絡（ヨコのつながり）や、学会内の年寄り（？）と若手の交流（タテのつながり）が、相対的に弱くなっているようにも思えます。日本の気象学が、地球環境学の重要な分野を担って、飛躍的な発展をするためにも、このタテとヨコとのよい意味での緊張関係を、今後ますます活性化させていく必要があります。

私自身は、準（？）中年の強みを活かして、また境界領域にも野次馬的な関心を持つひとりとして、学会に於けるこのタテとヨコのつながりに、微力を尽くしたいと思っています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 佐藤 信夫

昭和24年5月17日生，昭和47年東京大卒。

普及と教育委員を2年経験し、現在は気象集誌の編集委員として活動しております。10数年、数値予報を専門分野としてきました。この分野でも大気圏と水圏・生物圏との相互作用が重要になってきました。こ

これらの境界領域の研究を進展させるには、衛星による遠隔測定が必須です。日本でも地球観測衛星の打ち上げが計画されています。ロケットや衛星・測定機器などのハードウェアはともかく、取得したデータを如何に利用するかというソフト面の研究が遅れているように思われます。

以上のようなことを念頭において、微力ながらお役に立ちたいと思っております。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

## 岡村 存

昭和6年2月15日生，昭和28年九州大卒。

前期は国際学術交流の担当理事をさせていただきました。大勢の会員の方々のご協力と関係者のご尽力により、昨年一応の募金目標を達成することができありがとうございました。おかげ様で、この基金により従来の活動を一層円滑に続けることができ、学会としても国際交流の促進に寄与できるものと期待されますし、もし可能であれば、引続き担当させていただきたいと思えます。

また、地球環境問題や新しい気象情報の要望等が高まる中で、学会としてもより幅の広い分野での活動と交流が必要となりつつあり、このためにも多くの人に親しみやすい学会となるよう、この面でも微力をそそぎたいと思います。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

## 松野 太郎

昭和9年10月17日生，昭和32年東京大・理卒。東大・理・助手，九大・理・助教授，東大・理・助教授を経て昭和59年より東大・理・教授。専攻：気象力学。

前回にも記したことですが、現在、大気科学は一つの転換期にあると思います。地球温暖化問題をはじめとする地球環境問題に対処するための基礎を与え、社会の意志決定にかかわる研究分野として、社会とのつながりは強くなり、また、組織的・計画的研究が重要になって、ビッグサイエンス化が進むと思います。過去2年の体験で、日本の大気科学が、研究者数、研究投資の面で、この新しい展開に追いつくのが容易でないことを実感しました。

この流れは避けることのできないものですし、大気科学の社会的責任でもあると思います。これに如何に対応するか、模索してゆきたいと考えています。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清

秀，河村武，浅井富雄

【中部地区】

## 山 岸 米二郎

昭和11年11月17日生，昭和34年気象庁入庁，現在に至る。

大気科学としての気象学は近年目覚しく発展した。関係者の努力の賜と思う。しかし学問の成果を社会の諸活動に役立てるという面での努力は相対的に小さかったと思う。この面で微力をつくせれば幸いである。

推薦者：池田学，土屋喬，渡辺正夫，佐々江保男，本多進，原達也

## 武 田 喬 男

昭和11年10月31日生，昭和35年東京大・理卒。昭和51年より名大・水圏科学研究所教授。

地球の自然環境の保全，変動の予測も含めて，気象，気候が社会，日常生活におよぼす影響が多様になるにつれ，周辺からの気象学への要望もまた，ますます多種多様になっています。日本気象学会としましても，地球規模，地域規模のいずれにおいても，自然環境の維持と変動の機構を気象学の立場から正しく理解すること，その知識を社会のいろいろな分野の人達に正しく伝えることが大変重要になっています。このような要望に応えながら，学会が気象学の発展と啓蒙に地球規模の視点を持って取り組んでいくことについて，特に，地球観測システムの発展と利用，大気中の水のサイクルと関連する諸問題の解決などを中心に，貢献したいと考えております。

推薦者：田中浩，加藤内蔵進，石坂隆，瀬古勝基，大畑哲夫，阿部豊，樋口敬二

【関西地区】

## 植 村 八 郎

昭和6年1月4日生，昭和30年鹿児島大卒。

気候変動の研究にみられますように，気象学における研究は，近年，ますます他の学問分野の研究者との協力，情報交換，さらに，国際的協力が必要になってきております。このような研究の学際化，国際化に対応していくことが気象学界の発展に不可欠であると考えております。また，気象学における研究成果を活用し，社会に寄与すべき立場にある気象庁に勤める者として大学等の研究機関とより一層の意志疎通をはかり，今後ともよき協力関係を維持し，会員の皆さんの調査・研究等の学会活動を更に進めていくうえでお役に立ちますよう微力ではありますが努力したいと思います。

推薦者：村松久史，飯島邦彦，岡本利次，由良武，廣田勇

#### 光田 寧

昭和8年10月13日生，昭和33年京都大学大学院理学研究科修士課程修了。昭和35年京都大学理学部助手。昭和37年京都大学防災研究所に配置換え。昭和51年同教授，現在に至る。

気象学の底辺を拡げることにつとめたい。

推薦者：村松久史，廣田勇，植村八郎，由良武

#### 廣田 勇

昭和12年5月7日生，昭和41年東京大院卒。

IAMAP 93の日本開催をひかえ，気象学会の国際化をより一そう推進すべく微力を尽くしたい。

推薦者：村松久史，光田寧，植村八郎，岡本利次，飯島邦彦

#### 佐橋 謙

昭和5年8月25日生，昭和32年京都大院卒。

気象学に対する社会の関心と要求が今までになく高まっている現在，地方在住の会員として，気象学の裾野の広がりにも貢献したい。そのためには，大学における学生教育はもちろん，開かれた大学としてのいろいろな場面での寄与を考えたいし，学会の支部活動のいままで以上の活性化も課題であろう。

推薦者：村松久史，光田寧，岡本利次，飯島邦彦

[九州地区]

#### 門脇 俊一郎

昭和8年11月25日生，昭和32年東北大卒。

気象サービスの充実発展が私の所属する機関の責務ですが，それには多様な科学，技術の成果を駆使することが必要です。気象の科学は中でも重要なものの一つであり，その意味で気象科学の発展は私共にとつての重要関心事であります。

地域における生活，社会，経済活動の要請に的確に答える気象サービスの実現には，地域特有の大気現象の理解を深めることと，利用者の情報についての理解を高めることが，まず必要と考えられます。このような意味で，支部における気象知識の普及活動を含むもろもろの活動を会員諸氏の協力のもとに活発にしていけることが肝要と考えられます。

推薦者：瓜生道也

#### 瓜生 道也

昭和14年7月7日生，昭和39年九州大院卒。

推薦者：門脇俊一郎

#### 小林 哲夫

昭和20年4月13日生，昭和43年京都大卒。

推薦者：門脇俊一郎

[沖縄地区]

#### 石島 英

昭和10年11月8日生，昭和38年東北大院卒。

地方の地理的条件や地域的事情を生かした研究活動を促進するために，中央の大会や国際的な研究集会，シンポジウム等を従来の開催地にただわらず，特色のある地方支部に誘致すること等を通して，各地方支部の研究活動を促進していきたい。

推薦者：高谷悟

## 2. 監事

#### 関口 理郎

大正15年6月25日生。

前期に引き続き監事として学会運営に携わることが会員に承認されたならば，地球環境問題への関心の高まりの中で，幅広い学会活動の拡大強化のため，理事会や総会が適切に運営されるよう，監事としての役割を誠実に果たしていく所存である。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄

#### 多田 一正

昭和24年2月13日生，昭和47年京都大卒。

このたび第26期の監事に推薦を戴き，立候補致しました。

学会員の調査・研究活動の成果と情報が，会員以外の方々にも容易に届くように，また気象学に興味を持つ人々の輪がさらに広がるように頑張りたいと思います。

微力ではありますが，日本気象学会の発展にお役に立ちたいと思っております。

推薦者：新田尚，黒沢真喜人，岡村存，相原正彦，竹内清秀，松野太郎，河村武，浅井富雄